

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ノイマン	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	人形番長
オプション	ブラム=ストーカー	年齢		性別	
覚醒	感染	衝動	加虐	初期侵食率	48 %
出自		経験	不良	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2		0			2	行動値	7
感覚	1		0			1	(非装備時)	10
精神	3	1	0		4	8	戦闘移動	15
社会	2		0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報: アカデミア	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
無機なる四肢	RC	8r+1		Lv+4		
傀儡の腕	RC	8r+4		5		
人形達の囃道曲(ディヴェルティメント・コッペリア)	RC	11r+1		6+8		
終血の狂騒曲(ブラッディ・カリアッツィオ)	RC	8r+1				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
従者の甲冑		10	-5	-3	従者専用

合計装甲: 10 合計回避: -5

所持品		ロイス			
Aランク	従者の安らぎ	対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ
		Dロイス: 実験体P		N	
		不良仲間	P 連帯感	N 憐憫	
		カルペ・デュエムP	親近感	N 侮蔑	
		クリス	P 連帯感	N 嫌気	
		鳳凰院・康親	P かてえ	N すげえ	
		一般生徒	P 有為	N 劣等感	
			P	N	
		最大財産P:	4	残り財産P:	4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
C: エグザイル	2	2						
効果:	攻撃力+Lv+4 対象回避-1D							
赤色の従者	4	5	メジャー			RC		
効果:	従者作成 HPLv*5+10							
血の絆	2	3	メジャー		自身			
効果:	作成従者はシナリオ中存在可能							
再生の血	2	2	メジャー	視界		RC		
効果:	対象のHP+(Lv+2)D回復							
天性のひらめき	2	4	メジャー					
効果:	C値-Lv(下限7) 戦闘使用不可							
赤河の従僕	4		常時					
効果:	従者の全ての能力値+Lv							
声なき子ども	2		常時					
効果:	シーン中に作成可能従者+Lv							
患者の兵装	4		常時					
効果:	従者専用アイテム取得							
紅の猟兵	4	5	イニシアチブ		シーン(選択)		リミット	
効果:	従者の判定+3D 攻撃+Lv*2							
デビルストリング	1	6	オート					
効果:	制限: --の打ち消し							
オープンペイン	1	4	オート	視界	単体		120% 飢餓	
効果:	対象のダメージ+(Lv+1)D							
崩れずの群れ	★	2	オート					
効果:	カバーリングを行う							

◇従者さんデータ  
 HP30 行動値25-3 移動距離30  
 肉体7 感覚7 精神7(11) 社会7

本名: 鶯喰 帝人(うそばみ みかど)  
 自身の本当の両親は覚えておらず、育ての親にしばらく育てられていた。  
 物心着く頃には育ての両親は早くに他界していたが、アカデミアで妹と二人で何不自由なく暮らしていた。  
 この時、自身は能力の使用はできなかったが、妹がオーヴァードであったため、UGNの勧めで住むことになった。  
 しかし、年齢14の時、暴走したジャームによる事件に巻き込まれ、瀕死の重傷を負う。  
 同時に、事件解決に動いていた妹もリザレクトが間に合わないほどの重傷を負ってしまっており、兄である帝人を救うため、最後の力で自身の血を帝人に分ける。  
 その後、他の事態収拾に赴いた生徒が見たのは、半狂乱状態になっていた覚醒した帝人と、その腕に抱き抱えられていた妹の亡骸と、肉塊と化したジャームだったという。

帝人はあの時、自分は死んだと考えており、その後「御門」と名乗っている。

自身の従者が象る、赤ずきんを被った少女のような姿は、妹が好んで作る従者が象る姿であり、その動きも妹の性格をそのまま投影してるかのような動きであった。

まるでそこにまだ、妹が生きると自身に暗示するかの様に

